

東山通り－覚王山通りの町並

(1991年12月～1992年8月)

A Street Sight from Higashiyama to Ikeshita.

森田 紘

東山通りー覚王山通りの町並

(1991年12月～1992年8月)

A Street Sight from Higashiyama to Ikeshita.

はじめに

こみあげてくるものがあり、いそいで自宅へ帰りノートとペンと携帯用の水彩絵具をもって引きかえし、東山通りの岩部時計店の前に立っていた。1991年12月30日のことである。

この東山通りは栄・広小路通りから、本郷の名古屋インターチェンジに抜ける唯一の幹線道路で、今池から東山までの3 kmが、その道路拡幅計画が進まない地域だといわれている。しかし、この2・3年、商店の転業・廃業が目立ち、休業中とおもわれていた所が突然消失して、スベツとした空地になって、鉄線で囲われるか、急ごしらえの駐車場になってしまふ。そしてそれが、5・6軒つなると、突然十数階建てのビルになって建ち上がる。私は情けないことに、わずか前の店が思い出せないことが多いのだ。畳屋・豆腐屋・金物屋・履物屋…。※岩部時計店の2軒隣は、近くの小学生に愛された、マルブンという文具店で、91年10月突如店をたたんでしまった。マルブンと岩部時計店の間のパーマ屋さんも休業中である。

古い商店街の中の時計屋さんには大きなショーウィンドウを持っていて、きまって10年も昔の新発売時計が色あせたプライスカードと共に置きざりになっていることが多い。岩部時計店のショーウィンドウも色あせてはいたが、店主の岩部さんは、誠実で腕の確かな時計職人であっ

た。その人が、どんな想いで「30年お世話になりました。来る12月31日限りで、店を閉じます。」と半紙一枚の告知ポスターを店の前に貼りだしたことだろう。



記録のところがまえ

わたしは、岩部時計店の前で、色々なことを思いめぐらしていた。1991年の正月に東山通りから、末盛通り・覚王山通りとカメラを持って歩いた時、覚王山附近の北側がボロボロと歯が抜けたように空地に変わっていった。二軒にはさまれたカラー写真の中の空地は、皆同じように見えて何故か愛着のもてないものであった。今回私はスケッチで次のことを目指したい。①建物（商店）は街の連続の中でこそ生きている。②描いているその日の、時代と生活を切りとる。③できるならば、建物（商店）の変化を記録したい。アート紙のノートに耐水性インクで描き水彩で色をつけること。スケッチブックの下半分を、何時の日か描くために空けおくこと。建物はできる限り一軒一軒の正面から描く。街路樹や電柱、交通標識

などは建物の添景位にとどめる。その日の気候条件による気分の変化や、建物への興味のあるなしで描写に粗密があってもかまわないことにする。これらのことを想い浮かべながら、私は『町の連続』の起点として、東山公園を正面に見るところまで戻った。

岩部時計店の思い出

師走の買い物客の往来する中で、見慣れた東山商店街を一軒一軒描きすすめて翌12月31日、夕方にやっと岩部時計店のところまで着いた。歩道橋の所から寒風の中でスケッチをしながら、岩部時計店の閉店直前の輝きのようなものを車道をはさみながらではあるが見とどけたような気持ちがした。

この町の住人になって20年間、岩部時計店に足をはこんだのは数回しかない。印象的なのは、良く動いてくれた20年選手の時計を2回修理をしてもらった時のことである。動かなくなってしまったキングセイコーを、ていねいに見たあとで修理期間と、数千円の修理代を告げられた。謙遜に、他の店で新しい時計が買えますよとでもいいたそうに。前歯に少しすきまのある痩身の主人は、手巻きのリューズ摩耗したことを、こういう訳だからと私を慰め、町の時計屋の思いなど顧みない時計メーカーを悲しい程に弁護するのであった。その話のあまりにも長いと奥の部屋からせき払いが聞こえ

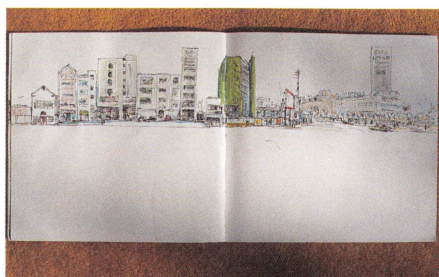
てくる。無事修理された時計を受けとりに行った日は、清朝時代という年代ものの置時計を指さされた。にぶく油光りする厚味のある大きな歯車に欠けたところをさし歯のようにつなげた修理の見事にうなり、これからまた一世紀の間、時を刻むような気がした。私が20年間(この町に移り住んで生活をしている中で)気付かないうちに、電気製品はもちろん、ミシン・カメラそして時計と、「道具のいのち」を大切に考えることを忘れた社会と、自分自身になっているのだと思った。



最後に

3月の数日、8月の数日と描きついで池下の坂下町の角の大きな古い商家の屋根を描いたところで、根気がつきてし

まった。高層共同ビルにも窓の数だけ生活が営まれているのだろうが、全く同じ形のくりかえされる窓や外側の階段は、正直のところ退屈であった。



有名な古田さんのがんばっていた本山の昌進堂古書店、唐山のフカガワ理容、覚王山の大鹿米穀店などが、再度でかけた1992年12月23日にはすがたをけしていた。私のスケッチブックに描かれたものをたどってみると、閉店9、商売変更3、空地になってしまったもの17であった。いかに変化の激しい年であったか！

39ページの不出来なスケッチを、一枚につなげて見たいというわがままを許していただいたおかげで、ここにこれが実現したことを感謝する。

(1992年12月23日)

※参考資料

名古屋市全商工住宅案内地図帳(昭和49年度版) 住宅地図協会発行

私の町並スケッチと照らし合わせると1974年には5階建以上の共同ビルは3、1992年には37。住宅も商店も合わせて、1974年には283軒が数えられるが、1991年12月には223軒、さらに1992年12月には、206軒となっている。





東山公園

唐山3丁目

→ここまで1991年12月スケッチ



唐山1丁目



松竹町1丁目

城山

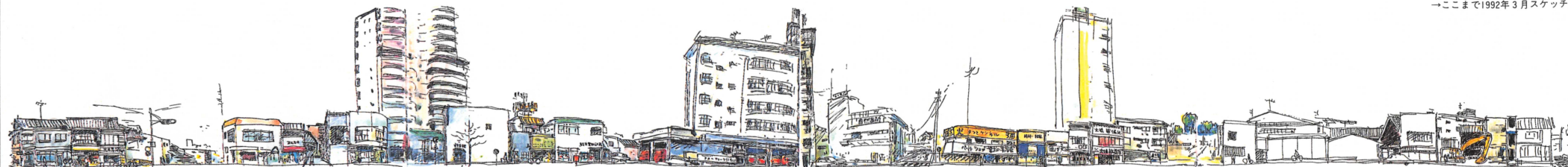
→ここまで1992年1月スケッチ



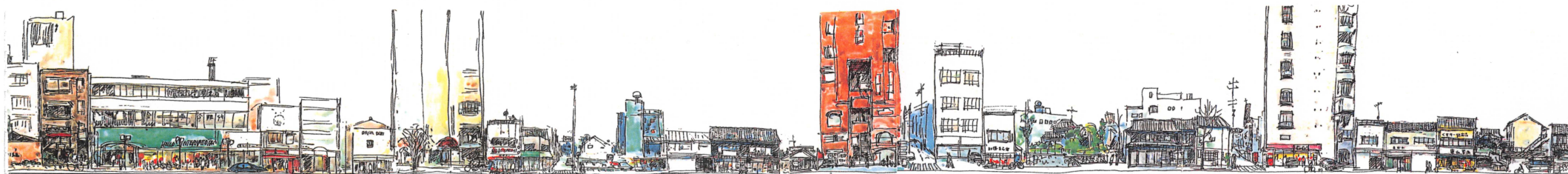
親月町1丁目

丘上町

→ここまで1992年3月スケッチ



菊坂町

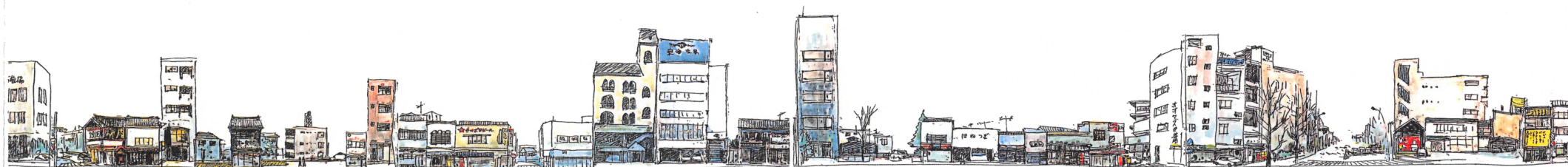


唐山 2 丁目



朝岡町 1 丁目

本山交差点



穂波町 1 丁目

末盛交差点



覚王山日泰寺前

→ここまで1992年8月スケッチ



千種区役所

坂下町